

# 特 許 協 力 条 約

P C T

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第 12 条、法施行規則第 56 条）

〔P C T 36 条及び P C T 規則 70〕

出願人又は代理人 の書類記号 PCT-AB05008J	今後の手続きについては、様式 P C T / I P E A / 4 1 6 を参照すること。	
国際出願番号 P C T / J P 2 0 0 5 / 0 0 0 8 2 5	国際出願日 (日. 月. 年) 2 4 . 0 1 . 2 0 0 5	優先日 (日. 月. 年) 2 7 . 0 1 . 2 0 0 4
国際特許分類 (I P C) Int.Cl. <i>A61M1/14</i> (2006. 01), <i>A61M1/36</i> (2006. 01)		
出願人 (氏名又は名称) 独立行政法人科学技術振興機構		

1. この報告書は、P C T 35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第 57 条 (P C T 36 条) の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 5 ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。 a. <input checked="" type="checkbox"/> 附属書類は全部で 1 ページである。  <input checked="" type="checkbox"/> 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙 (P C T 規則 70. 16 及び実施細則第 607 号参照)  <input type="checkbox"/> 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙  b. <input type="checkbox"/> 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。 配列表に関する補充欄に示すように、電子形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。 (実施細則第 802 号参照)
4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。  <input checked="" type="checkbox"/> 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎 <input type="checkbox"/> 第 II 欄 優先権 <input type="checkbox"/> 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成 <input type="checkbox"/> 第 IV 欄 発明の単一性の欠如 <input checked="" type="checkbox"/> 第 V 欄 P C T 35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 <input type="checkbox"/> 第 VI 欄 ある種の引用文献 <input type="checkbox"/> 第 VII 欄 国際出願の不備 <input checked="" type="checkbox"/> 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 3 1 . 0 5 . 2 0 0 5	国際予備審査報告を作成した日 2 6 . 0 4 . 2 0 0 6		
名称及びあて先 日本国特許庁 (I P E A / J P) 郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 内藤 真徳	3 I	3 3 2 3
	電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 3 4 6		

様式 P C T / I P E A / 4 0 9 (表紙) (2 0 0 5 年 4 月)

## 第 I 欄 報告の基礎

1. 言語に関し、この予備審査報告は以下のものを基礎とした。

- ☒ 出願時の言語による国際出願  
☐ 出願時の言語から次の目的のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文  
☐ 国際調査 (PCT規則12.3(a)及び23.1(b))  
☐ 国際公開 (PCT規則12.4(a))  
☐ 国際予備審査 (PCT規則55.2(a)又は55.3(a))

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 \_\_\_\_\_ 1-9 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付かで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付かで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 \_\_\_\_\_ 2-4, 6, 9, 11 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ 1, 5 \_\_\_\_\_ 項\*、 11.04.2006 付かで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付かで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 \_\_\_\_\_ 1-14 ~~ページ~~/図、出願時に提出されたもの  
 第 \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付かで国際予備審査機関が受理したもの  
 第 \_\_\_\_\_ \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付かで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☒ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 7, 8, 10 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第Ⅴ欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第 12 条（PCT35 条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	3	有
	請求の範囲	1, 2, 4-6, 9, 11	無
進歩性 (I S)	請求の範囲	3	有
	請求の範囲	1, 2, 4-6, 9, 11	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲	1-6, 9, 11	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明 (PCT 規則 70.7)

文献 1: JP 9-507414 A (ヘモクレンズ・インコーポレーテッド) 1997. 07. 29

請求の範囲 1, 2, 4, 9 に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献 1 より新規性、進歩性を有しない。請求の範囲 1 の「血漿分離装置で分離されその後に浄化した血漿交換廃液を透析液として循環させて患者血液を透析」する点は、文献 1 の第 14 頁第 1-8 行, 第 19 頁第 23 行-第 21 頁第 13 行, 第 3 図に、開示されている。文献 1 に記載された発明は、血漿の一部を HFD を通して透析物側に移行させ、代わりに貯蔵器 11 から塩水を血液中に添加するものであるから、血漿交換を行っているものと認められる。

請求の範囲 3 に記載された発明は、国際調査報告で引用された何れの文献にも開示されておらず、新規性、進歩性を有する。特に、請求の範囲 1 に記載された発明を、二重濾過血漿交換療法用とすることは、何れの文献にも開示されていない。

請求の範囲 5 に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献 1 より新規性、進歩性を有しない。文献 1 に記載された発明は、HFD 装置において、Push & pull HDF のように正圧と負圧を交互に印加するものであって、血液側と透析物側の圧力差がほとんどない状態のときには、当然透析が行われているものと認められるから、文献 1 には、請求の範囲 5 の「血漿分離装置が透析器としても機能する」点が開示されている。

請求の範囲 6 に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献 1 より新規性、進歩性を有しない。文献 1 の第 10 頁第 16-17 行には、請求の範囲 6 の「浄化装置が吸着分離装置から構成される」点が開示されている。

## 第Ⅷ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 11 は、請求項 1-6, 9 のいずれかに記載の装置を備える人工肝臓であるが、人工肝臓装置にどのようにして請求項 1-6, 9 のいずれかに記載の装置を設けるのかが不明確である。

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

## 第 V 欄の続き

請求の範囲 11 に記載された発明は、国際調査報告で引用された文献 1 より新規性、進歩性を有しない。文献 1 の第 5-7 頁には、発明の背景として肝硬変等の肝不全を治療する技術について述べられており、文献 1 の第 12 頁第 8-18 行には、肝細胞を収着剤サスペンションとして用いることにより毒素の除去を行うことが記載されているから、文献 1 に記載された発明は、「人工肝臓」とであると認められる。